

## ガウンは使いまわしをしません

### 間違った事例

濃厚接触者に対して、職員はガウンを着用して対応していた。しかし、同じガウンを何度も使いまわしていた。

イラスト挿入

### 正しい事例

一度着用したガウンは再利用せず、入所者ごとに使い捨てで対応する。

### 解説

ガウンの再利用は、汚染されたガウンが次に使う入居者に触れることにより、感染が拡がる危険性が高いです。ガウンの残数や入荷予定数を確認し在庫状況を常に明らかにして、必要なガウンを計画的に手配しましょう。

## ディスポーザブルエプロンを着用します

### 間違った事例

おむつ交換を布製のエプロンやガウンで対応している

イラスト挿入

### 正しい事例

おむつ交換では**撥水性のある**ディスポーザブルエプロンを着用する。

### 解説

身体的な接触がある場合には、**撥水性のある**ディスポーザブルエプロンと手袋を着用します。1 利用者**と接触する**ごとにエプロン、手袋を交換し、手指衛生を行うようにしましょう。

## 個人防護具や白衣に消毒薬を噴霧しない

No. 7

### 間違った事例

個人防護具や白衣に、消毒薬を噴霧して消毒し、使い回している。

イラスト挿入

### 正しい事例

個人防護具や白衣は消毒薬で消毒するのではなく、その都度交換する。

### 解説

個人防護具や白衣などの消毒薬の噴霧は、感染対策上の有効性はありません。消毒薬を吸入することによる健康被害の可能性もあります。使用した個人防護具や汚染した白衣は、その都度交換するようにします。

## 清潔区域ではマスクのみ着用する。

No. 8

### 間違った事例

清潔区域で手袋やエプロンを着用したまま作業している。

イラスト挿入

### 正しい事例

清潔区域では医療用マスク以外の個人防護具を着用しない。

### 解説

個人防護具は一行為ごとの交換を行います。二重に着用しても外す場合に内側が汚染される可能性があります。清潔区域では、環境の汚染による間接的な接触感染のリスクのため、医療用マスクのみ着用し、手指衛生を励行しましょう。

## 手指消毒の配置について

### 間違った事例

手指消毒剤が必要な場所に配置されていない。動線上に手指消毒剤が無い。もしくは少ない。

イラスト挿入

### 正しい事例

必要な場所には消毒薬を設置する。施設利用者の誤飲のリスクにより手指消毒薬の設置が困難な場合は職員の個人持ちを行う。

### 解説

手指消毒は必要なタイミングで速やかに行えるようにすることが大切です。配置が必要な場所については、職員同士で話し合い、日常の業務や職員や利用者の行動などを想定して設置場所を決めましょう。ポシェットタイプの手指消毒薬があるという理由で消毒薬を配置していない場合がありますが、職員全員が常備していない場合は必要な場所への設置を行ってください。職員の休憩所や更衣室など見落とししやすい場所もあるので、注意しましょう。

## 手指消毒の徹底

No. 2

### 間違った事例

職員がポケットに鍵や PHS などを入れ、取り出して使用した際に、手指消毒がなされていない。

イラスト挿入

### 正しい事例

鍵や PHS など共有したり汚染する可能性があるものは、ポケットに入れず所定の場所で管理する。個人持ちの場合でも汚染の可能性を考慮して、触った後の手指消毒を欠かさない。

### 解説

ポケットにいろいろな物を入れて勤務中に取り出して使用することで、ポケットの汚染も起こりますので、なるべく使用しないようにしましょう。もし仕事上、持ち運ばないと不便な物がある場合は、いったん消毒用のクロスなどで拭き取るのが良いでしょう。ポケットから取り出した物がすでに汚染されている可能性もありますので、使用後は手指消毒を実施しましょう。

## 整理整頓をしましょう

### 間違った事例

職員が使用するエリアが雑然としており、環境清掃を行う際に効果的に実施できなかった。

イラスト挿入

### 正しい事例

物を減らして整理整頓することで環境清掃をしやすくなる。

### 解説

多くの職員が触れる場所を中心に整理整頓に努め、清拭の妨げにならないように工夫しましょう。

## おむつカートは使用しない

### 間違った事例

介護の時などにおむつカートを使用し、カートに物品を山積みになっていた。

イラスト挿入

### 正しい事例

おむつカートは使用しない。どうしても使用する場合は物品を極力減らす。

### 解説

おむつカートを紹介して感染が広がる危険があります。使用せざるを得ない場合は物品をできるだけ少なくし、一人のケアを行う毎に手指消毒と PPE 交換の必要があります。

## 更衣室は同時に使用しない

No.6

### 間違った事例

更衣室は、窓もなく、狭い環境で、出勤時には多くの職員が同時に使用していた。

イラスト挿入

### 正しい事例

更衣室の使用時間をずらすなどし、同時に更衣室を使用する職員数が少なくなるようにする。更衣室には職員が会話をしないよう掲示したり、手指消毒剤の設置、換気の徹底など感染リスクを下げる工夫を行う。

### 解説

更衣室は三密の状態になりやすく、職員間の感染が広がるリスクがあります。三密にならないよう工夫し、手指衛生・換気など基本的な感染対策を確実に行いましょう。

## 消毒薬はスプレー使用しない

No.11

### 間違った事例

スプレーボトルに消毒薬（次亜塩素酸ナトリウムやアルコール）をいれ、噴霧して消毒している。

イラスト挿入

### 正しい事例

**消毒する時は**環境クロスを用いて清拭消毒する。

### 解説

消毒薬は噴霧ではなくふき取ることが重要です。スプレーボトルは光によって安定性が落ちる、ボトルをいろんな人が使用して汚染されやすい、などの欠点がありますので、環境清掃には環境クロスの使用が望ましいです。どうしてもスプレーを使用する場合は紙などに近距離で噴霧し、清拭消毒しましょう。

## ゾーニング

### 間違った事例

フロア全部をレッドゾーンとし、ステーションでもフル PPE 着用している。またフル PPE を着用している職員と着用していない職員が交差することがあった。

イラスト挿入

### 正しい事例

**ゾーニング**は汚染区域と清潔区域を明確に区別し、交差の機会を減らすことが必要。

### 解説

汚染区域はなるべく狭く設定した方がよいです。患者が立ち入らないスタッフルームなどは清潔区域とします。レッドゾーンを狭くすることで、スタッフの（リスクを伴うケアに対する）意識の切り替えがしやすくなり、PPE 着脱手順を含む業務もはっきりします。そのことが職員の業務負担軽減につながり、職員の安全を保つことにもなります。

## 医療廃棄物のカート

### 間違った事例

感染性廃棄物が乗っているカートをナースステーションに持ち込んだり、廃棄物を汚物室に持っていく際にナースステーション内を通過するなど、ステーション内に汚染が生じやすい行動が見られた。

イラスト挿入

### 正しい事例

感染性廃棄物（および運搬用のカート）は、ナースステーションを通過したり持ち込んだりしない

### 解説

ナースステーション内で汚染が生じる可能性があるため、感染性廃棄物はナースステーションに持ち込んではいけません。感染性廃棄物を廃棄するまでの流れを確認する必要があります。

## 職員の健康観察の方法について

### 間違った事例

職員の健康観察記録を自己記載のみと  
していた。また、出勤日の状況のみを  
記載し、休みの日の健康観察を行って  
いなかった。

イラスト挿入

### 正しい事例

職員の健康観察結果をチェックする担当者（部署の管理者が望ましい）を決め、  
対応を要する状況かどうかを速やかに判断するようにする。  
また、休みの日を含めて健康観察の対象とし記録を残す。  
さらに、勤務前、勤務中、休日ともに、体調不良を感じたなら、すぐに職場担当  
者に報告するように啓発する必要がある。

### 解説

健康観察を徹底させるには、個人に任せるのではなく、施設管理者が明確に管理  
する仕組みを作り徹底させることが重要です。

## 飲食時の注意について

No.5

### 間違った事例

休憩室内で終業後、複数の職員が飲食をしながら長時間会話をしていた

イラスト挿入

### 正しい事例

休憩室内に関わらず、飲食時は会話を禁止するようポスターを掲示など、注意喚起をすることが重要。

### 解説

マスクをせずに近距離で会話することは、感染リスクを拡大する行為です。食事は会話せずに済ませ、マスク着用後に会話するようにします。特に終業時は気が緩みやすく滞留しがちですので、できるだけすみやかに帰宅するよう啓発しましょう。

## 疑似患者の対応について

No.7

### 間違った事例

利用者が発熱や呼吸器症状など、**新型コロナウイルス感染**を疑う症状が出た際の対応が不十分

イラスト挿入

### 正しい事例

**新型コロナウイルス感染**を疑う利用者が出た際にどのように対応するのかを明文化し、誰でも同じような対応ができるようフローチャートを作成する。

### 解説

感染疑い利用者が発生した場合の対応やそのフローチャートを作成する場合、専門家の支援を受けることが望ましいです。利用者だけでなく、感染が疑わしい職員が発生した場合についても同様です。

## 歯ブラシについて

### 間違った事例

利用者の歯ブラシをまとめて、ハイターや除菌水で洗浄し、まとめて保管していた。

イラスト挿入

### 正しい事例

歯ブラシは個人管理とする。

### 解説

体液による交差感染が起こる可能性があります。やむを得ず集合して管理する場合、歯ブラシ同士が触れないよう十分に距離をとりましょう。